

2024年12月期 第1四半期決算説明会 質疑応答の内容

<2024年5月14日に開催した決算説明会における質疑応答の概要です>

【回答者】

CFO IR担当執行役 細田 修吾（以下、細田）

質問者 1：1点目、1Qの営業利益はおおむね予定通りとのことだが、為替の影響や土地などの売却益により、細かく言えば想定を上回っているのかを確認したい。

開示可能であれば、決算説明会資料の7ページに示されているエネルギーの土地売却益や藤沢事業所の工場建屋の除却損が通期計画に元々入っていたかを含めて、1Qの営業利益の詳細を解説いただきたい。

細田：エネルギーの土地売却益および藤沢の除却損は、元々計画に入っている。エネルギーの土地売却益は、クライオポンプの生産工場をネバダ州からエリオットのあるピッツバーグに移転した結果、不要となったネバダの土地を売却した。

営業利益への影響としては、10億円前後が売却益として今回の1Qに計上されている。

営業利益は概ね想定範囲内ではあったが、為替は想定レートを140円としていたので、想定外の為替益が全体で9億円あった。

それも踏まえて、全体としてはほぼ計画通りとみているが、若干、上期の計画値を調整した。営業利益の状況として、多少1Qが想定よりも多く出ており、それを上期の計画値に反映した。

質問者 1：2点目、精密・電子における1Qの受注高は、前年同期比で見れば回復しているが、計画対比では進捗が低いように見え、昨年の3Q（7-9月）や4Q（10-12月）と比較すると下がっている。この辺りについては心配ないということだと思うが、改めて解説いただきたい。

また、上期の受注見通しをやや下げているが、タイミングの問題で懸念する必要はないのかを解説いただきたい。

さらに、営業利益に関しては、CMPでプロセスアクセプタンステスト（PAT）の1Qから2Qへのずれがあるとの話だったが、売上収益がどのくらい1Qから2Qへずれたのかも合わせて解説いただきたい。

細田：1Qの精密・電子の受注高は前年同期比で203億円増加している。3カ月ごとの推移で見ると減少しているが、昨年度の1Q比ではCMPが大幅に増加している。キャンセルも多くあった昨年度の1Qと比較して、安定的に出てきているのは良い傾向だと見ている。また、サービス&サポート（S&S）が回復してきていて、S&S比率が増えているのも良い兆候だと見ている。市場回復のステップとしては、お客様の工場稼働率が増加してくると、まずはオーバーホールなどのS&Sが伸び始め、ある程度の稼働率まで進むと、工場の設備に投資をし始めることが多い。

質問者1：上期の受注予想をやや下げているが、気にする必要はないか。

細田：上期から下期に期ずれをしたため、発注のタイミングがずれただけだと見ている。

質問者1：PATのずれの金額イメージはあるか。

細田：結構な量の装置をお客様に納品済みで、それにより前受金をもらえるケースも多いので、キャッシュフローとしては良い状況。

ただ、お客様は当社の装置以外も含めてPATを行うため、お客様側にもタイミングの都合がある。当社の都合のみで検収はしてもらえず、お客様側にある装置（検収待ち）の台数が増えてきている状況。

出荷済みで検収が終わっていない装置数は、前四半期末時点に対して数十台レベルで増加している状況にあり、昨年1Q末時点と比較しても増加している。ただ、滞留と言ってもこれは時間の問題で、検収はされる予定。前受金はもういただいている状況なので、キャッシュ的には問題もない。そのような中で、今期に随時売り上がっていく見込みなので、ある意味、売上はあると見込めるような状況だと考えている。

質問者2：2点伺いたい。

まず、精密・電子の受注について補足で伺いたい。CMPの受注は前年同期比では増えているとのことだが、QonQで見ると4Qの410億円から100億円強減少している。どのようなところの需要が弱く、受注が減少したのか。先ほど、中国のお客からの需要が強いとの話があったので、それ以外のお客か。

また、今後の受注回復の見通しについて、地域や、お客様をロジックとメモリーに分けたときに、どこが戻るのかについて、補足で説明いただきたい。

細田：4Qと比較すると確かに減少しているが、これは先ほども説明したとおり、お客様の発注タイミングによるもので、本質的な変化ではないと捉えている。

どこで減少したかは、お客様の数が少ないので言いにくいですが、比較的、中国の堅調さは継続しているが、中国以外のところを含めた全体的な傾向と理解いただきたい。

ロジック、メモリーについては、今現在の状況から考えると、メモリーの回復が少し遅い。その辺りがもう少し本格的に戻ってくると、回復の勢いもついてくると思うが、現状はそのような状況。

質問者 2：3カ月前と比較すると、メモリーの回復タイミングは多少後ろ倒しになっているとの理解でよいか。もしくは、あまり変わらないか。

細田：特にメモリーが3カ月前と比べて遅くなっているということでもないと見ている。お客様の発注のタイミングだと考えている。

質問者 2：もう1点、精密・電子の営業利益について伺いたい。この1Qの営業利益増減要因分析（決算説明会資料14ページ）のところで、収益性は、前年が低かったこともあるが、大きくプラスに出ている、上期でも営業利益の見通しが10億円増えた。進捗として、この1Qの精密・電子の営業利益は想定よりも良かったのかを確認したい。

また、収益性要因がプラスに効いているのは、S&S比率の上昇によるものだと思うが、それ以外にも、案件ミックスの影響でプラスに出てきていて、収益性が見通しが改善しているということはあるか。

細田：精密・電子の営業利益という観点では、進捗は大体想定通りだが、若干プラスだったかマイナスだったかという、少しプラス。

収益性が良かった点に関しては、案件ミックスの改善とS&S比率の上昇に起因すると理解いただきたい。

質問者 2：補足で、この収益性改善は、計画に対しても強めに出ているか。

細田：そう。大きくは想定通りだが、若干強めといってもいいかもしれない。

質問者 3：1点目、エネルギーについて、売上収益のS&S比率に対する評価を伺いたい。

今年度は元々、期初計画時からエネルギーのS&S比率は下がっていくとの話があったが、1Qの比率は元々の目論見通りか。想定よりもS&S比率が高止まりで推移しているのであれば、下期にかけて営業利益の上振れ余地が出てくると推察している。S&S比率に対する現時点での評価を伺いたい。

細田：エネルギーの1QのS&S比率が前年同期比で大幅に減少している点は想定どおり。ただ、60%から51%へと減少しているが、想定ではもう少し減ると見ていた。少し高い状況ではあるので、その分だけ営業利益は若干プラスのほうに出ている。

一方で、下期に向けて、お客様からのS&Sへの引き合いは確実に減少傾向にあるので、通期の見方に大きな変更はない。

質問者3：2点目、精密・電子の1Qと2Qの営業利益の段差についてもう少し解説いただきたい。

修正後の上期営業利益予想に対しての引き算という形になるが、1Qに対して2Qは、営業利益の水準が一段切り上がる。当然、売上収益が上がってきているからということもあるが、例えば収益性もしくはコストサイドで、どちらかというとなら1Qのほうがコストは出やすいのかを含めて、2Q予想の達成確度について説明いただきたい。

細田：単純に言うと、これは増収効果と案件ミックス。1件1件の案件の売り上がりのタイミングを積み上げて予想していて、現時点で2Qには売り上がると想定しているものは、結果的にミックスが良くなっている。

質問者3：今、お客様の検収を待っている状況のものが、計画通りに売り上がってくれば、基本的にはそれほど懸念点は存在しないという理解でよいか。

細田：その通り。

質問者4：精密・電子の受注の読み方について伺いたい。

期初の時点でかなり強い受注予想が出てきたので、そこが期待の源泉だが、荏原が四半期でいろいろと業績の修正をする点は、フレキシブルなアップデートがあることは嬉しいけれど、今回のような形になると、上期の修正によって、通期は大丈夫なのかと少々不安に感じてしまう。

例えば、受注予想の数字は、精密・電子だと正直ベースでどれぐらい読んでいるものか。年度でこれぐらいの計画はお客様からもらっていて、ただ、四半期レベルだったらこれぐらいずれるものだという話か。基礎的な質問だが、この受注予想はどれぐらい確からしいもので、それが足元でぶれることはよくある話なのか、ここの考え方を教えていただきたい。

細田：半導体業界の受注は、一般的に言ってなかなか読みにくい面があるのは確か。当社は、その都度、お客様の投資計画などから考えて、マクロに漠と積み上げるというよりは、ミクロに考え

られるところは、お客様ごと、地域ごとに積み上げた結果としての受注予想としているので、ある程度の根拠はある。

お客様の予想も含めてよく変わる市場であることは間違いない。ただ、大きく見たときに、先ほどのお客様の工場の稼働率が上がってきている状況や、半導体業界における一般的に言われている話、AIに関する話を総合的に考えると、今が増加局面にあると見ている。

本格回復のタイミングが3Qなのか、4Qか、もしくは来期の初めなのかのような、タイミングのずれを正確に予想するのは難しいが、下期にかけて本格的な回復があると思っていることに対しては、合理性があると考えている。

質問者4：元々下期からの回復だったので、今回、上期を修正して通期をというところは、1Q実績や2Qに向けてのアウトルックを見ると、想定ほどには行かなかったかもしれないが、下期の回復はまだ分からない、もしくは、これをもって年度の見通しが下がる話ではないので、通期は据えている、そのような位置づけか。

細田：そのように捉えて良い。

以 上